

2012年7月23日

横浜ゴム、生物多様性保全に向け国内5工場で活動を強化

横浜ゴム（株）は生物多様性保全活動を強化する。すでに2011年度から三重工場が先行して活動を展開してきたが、2012年6月から新城工場、三島工場でも活動を開始、8月以降からは茨城工場、長野工場でも活動を開始する。

横浜ゴムグループは天然ゴムを始め、鉱物、水など自然が生み出す様々な恵みに依存して事業を営んでいる。この恵みを支える多様な生命のつながり（生物多様性）の保全と持続可能な利用を目的に、横浜ゴムは2010年7月に「生物多様性ガイドライン」を制定。ガイドラインの行動指針のひとつに「生物多様性への影響の把握と低減」を掲げ、「自然生き物健康診断」と命名した事業所周辺の調査を開始した。

三重県伊勢市にある三重工場は、設備冷却用の水を近隣の宮川水系から取水し、松尾川へ排水している。三重工場の「自然生き物健康診断」では、県が主催する宮川上流の水源保全に向けた植樹活動「企業の森」への参画、宮川下流域の鳥類観察（ケリ、モズ）、松尾川の水質調査と生物観察（メダカ、トンボ類）、松尾川と繋がる伊勢湾流域の清掃活動、外来植物（コマツヨイグサなど）の駆除と在来植物（ハマヒルガオ、ハマゴウ、ハマボウフウ、チガヤ）の保全などを進めている。2年目を迎えた活動は従業員による自主的な取り組みへと進化しており、従業員自らが計画を立案、交代で調査することなどで生物多様性の理解を深めている。さらに活動を通じて地域とのコミュニケーションも活性化している。



三重工場従業員による松尾川の水生物調査の様子

今年度から「自然生き物健康診断」を開始した愛知県新城市にある新城工場では、豊川水系からの取水と排水への影響調査を行っているほか、豊川水系の水源に位置する県内有数の棚田である「四谷千枚田」の保全活動にも取り組んでいる。また同じく今年度から活動を開始した静岡県三島市にある三島工場は、「湧水の都」と称される豊かな水に恵まれた三島市の住宅街に隣接するため、近隣住民に十分配慮しつつ活動を進めている。



新城工場では「四谷千枚田」の保全活動も推進



三島工場従業員による植生調査の様子

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株）広報部 担当：菊地
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570